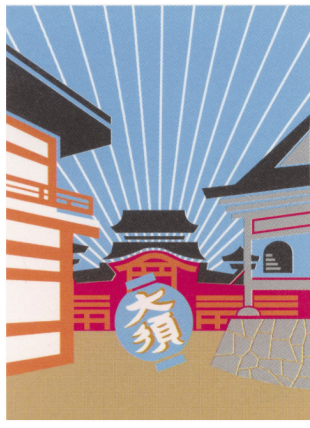


承認 1985年2月12日 例会日 木曜日 12:30 例会場 名古屋東急ホテル
会長 鬼頭茂成 事務局 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル6F
幹事 岡村隆徳 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337 〒460-0008
URL http://www.nagoya-osu.org E-mail office@nagoya-osu.org



第1379回例会

会員増強および拡大月間
平成24年8月23日(木)
於 名古屋東急ホテル
出席計算数 会員 63名
58名中48名出席
出席率82.76%
前々回出席率96.49%

例会プログラム

- ★春の叙勲 旭日小綬章
中京総合警備保障㈱ 代表取締役 松本 定道さん
- ★受入青少年交換学生挨拶
★前田社会奉仕委員会
・「ふれあい交通安全教室」
★堀江30周年準備委員長
・30周年事業
★横井衛さん
・芸協らぐこ・大須寄席

ロータリーソング

「大須ロータリーソング」
指揮者 松本 哲朗
ピアノ伴奏 富板 玲子

ゲスト

名古屋大須RCC元会員
(第18代目会長)
松本 定道さん
受入青少年交換学生
キャサリン・ワームス

ミニボックス

本日はお招き頂きありがとうございます。
松本 定道さん

松本定道さんようこそー武藤さん卓話よろしくお願ひします。

松本定道さん、よういらっしゃいました。 鬼頭 茂成

武藤さん今日の職業奉仕卓話よろしくお願ひ致します。 丹下 富博
武藤さん卓話楽しみです。頑張って下さい。 春日井和良

武藤さん卓話楽しみにしてます！ 酒井 修

武藤さん、卓話楽しみにしています。 尾上 昇・木村 光徳
僭越ですが、皆さんの前でお話をさせて頂きます。よろしくお願ひします。 武藤恵美子

久しぶりです。 小笠原和俊
お香典ありがとうございます。 横井 衛

昨日誕生日で、ジーナと家族にケーキを作ってもらいました。 林 順治

ケイリーがアメリカから来ました。 高木 政義

会長挨拶

皆さんこんにちは。 2週間ぶりの例会となります。昨日アメリカから青少年交換学生ケイティさんが来日しました。これから我がクラブでホストをします。皆さん気軽に日本語で声を掛け見守って下さい。

昨日は地区のロータリー情報委員



委員長会議に出席しました。リーダーシップ研修会と同じ方法で研修をしました。ロータリー情報委員

長は各クラブとも殆どがパスト会長ですので、皆が同じような見識、知識をお持ちで、ロータリーについての有意義な研修が出来ました。大須クラブもロータリーについて知識を高めたいと思います。

さて、今日は名古屋大須ロータリークラブ第18代会長であられた松本定道さんをご紹介します。松本元会長は中京総合警備保障株式会社の会長です。この平成24年春の叙勲で「旭日小綬章」を叙勲の栄に浴されました。警備業功勞で

した。大須ロータリークラブを代表してお祝いを述べさせて頂きました。おめでとうございます。

私は2001年10月入会でしたが、その時の会長が松本定道さんでした。松本会長の挨拶を、何とお話のうまい方かと私は毎週感激して聞いていました。今日は当時を思い出せるお話を伺いたいと思います。

春の叙勲 旭日小綬章

中京総合警備保障㈱ 代表取締役会長 松本 定道さん



職業奉仕卓話 シリーズ

私の職業を通しての奉仕活動、在宅医療の目指すもの

会員 武藤 恵美子

本日機会をいただきましたので、まず私が行っている在宅医療について説明し、さらに「在宅医療の目指すもの」について、私の思うところを述べたいと思います。在宅医療とは、単に医師が患者

さん宅に向くことではなく、通院困難な患者さんに対し定期的に訪問し、計画的な医療を在宅で行うことです。具合の悪い時だけ往診に来てほしいという要望は多いのですが、初めて見る急性期の患者さんに対して、検査器具も治療も限られる在宅医療は不向きで、その場合は設備が整った病院に行っていたほうが、そのため、在宅医療では診断と治療方針があることが前提です。

脳卒中を例に挙げます。脳卒中は歩行・会話困難という軽度のものから、意識消失・呼吸停止といった重症なものまで急性期の発症があり、病院で治療を受けます。状態が安定したら転院してリハビリテーション病院でリハビリを進めることが多く、3〜6か月のリハビリを経て退院しますが、生活困難・通院困難の後遺症が残った場合は、施設へ行くか在宅医療に移行します。

後遺症の中でよく問題になるのが嚥下障害です。嚥下障害は舌をうまく動かすことが出来ず、嚥下可能か



ら、誤嚥を繰り返す食事ができなくなり、さらに唾液も誤嚥し痰が増加という段階があります。嚥下ができず食事が摂れなくなったり、新間やテレビで話題となる胃瘻造るかどうか、最近「リビングウィル」という言葉で表現される、患者さん自身の意思表示が必要となってきます。胃瘻について具体的にスライドを用いて説明します。

さらに誤嚥がひどく痰の処理が困難な場合、気管切開が必要となります。気管に穴を開け、そこに吸引チューブを入れて気管の中の痰を吸引します。気管切開について具体的にスライドを用いて説明します。

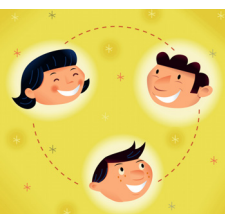
さらに、呼吸が自分でできない場合、気管切開チューブに在宅用の家庭用電源で動く人工呼吸器をつなげます。痰の吸引が少ない場合は、気管切開は行わず、鼻から密着する特殊なチューブをつなげて人工呼吸をする機械もよく使われます。

さて、厚生労働省は今、在宅医療を推し進めています。それは一時的な高齢化社会への対策として病院での治療よりも安価であるとの報告によりです。しかし、私はその考え方には疑問でその理由は、在宅医療とは本来医師や看護師・介護者を独占する時間が長い「贅沢医療」ではないかと思うからです。また、「病人は病院にいるのが

一番」という反対意見に逆らう確かな意見を持てず、積極的に在宅医療を勧めませんでした。

それを覆したのは昨年の東北大地震です。今回の大きな被害の要因は、甚大な津波災害を江戸、明治、昭和初期と経験していながらそれを忘れてしまっていたこと、「忘れることが人間的な自然現象」と書いた寺田虎彦の随筆どおりになりました。人間は忘れる。私は思い当たることがあります。病人を病院へ入れて社会から離すと、人々は「病」と「死」を忘れてしまつ。病気になるたら病院へ行き、その後は医師にお任せで、自分で決めることができない人が多いのはそのためではないか。在宅医療の意義の一つは、病人が社会の中にいられることです。それで周囲の人も「病」や「死」を身近に考えられるようになります。そして二つめ、最も大事なことが、「絆」と人のつながりの大切さです。日本人には当たり前で気が付きにくいけれど、人のつながりは努力して守り、築いていくものです。だから病人も努力して人のつながりを保つ必要があり、そのために在宅医療はとても有効です。

そんな時、私はロータリーに出会いました。私はまだロータリーをすべて理解している自信はありませんが、人のつながりを努力して守り、築いていこうというところにもとても共感しています。どうかこれからもよろしくお願いします。



受入青少年交換学生挨拶
キャサリン・ワームス
(次号以降に掲載致します。)



初めて例会に参加しました。

受入青少年交換学生到着

新世代奉仕委員長 大原 敏正

先日21日午後6時に今年度交換留学生のキャスリン・マリー・ワームスさん(18歳)が来日されました。長旅にもめげずにこやかに到着され、礼儀正しい日本語で自己紹介され我々一同は皆びっくりしました。

日本での呼び名は自国の発音に最も近い「ケイリー」、日本でも有名な「グレース・ケリー」に近い名前でないか易いと言いましたら、全く知りませんでした。古す



ぎました。

ホストファミリーの高木さん、岡村さん、山口さん、鬼頭会長とそれぞれ家族の方にはお集まり頂きありがとうございました。会員の皆さん1年間宜しく御願します。

9月13日(木) 例会の案内

新入会員登録

- 会員 白戸 泉さん
- 会員 高垣 満止さん

広報委員会

- 近藤宏一郎・林 富徳
- 杉浦 令淑・青木 靖高
- *本文は、原則 頂いた原稿を転載しています。